

- * イエスは、死で終わりではなかった。3日後によみがえられた。マグダラのマリヤが墓に来てみると、あつたはずのイエスの遺体はなくなっていた。誰かが盗んでいったのだとか、様々な憶測がされたが、イエスがよみがえったことは間違いなかった。その一番の証拠はよみがえられたイエスが弟子たちの前に何度も現れたことである。
- * イエスは死なないからだによみがえった。人間が生き返った話は聖書の数か所に記されている。会堂管理者ヤイロの娘、ナインのやもめの息子、ベタニヤのラザロなど。ラザロは死後4日も経って臭くなっていたのによみがえって、皆といっしょにいるところも描かれている。神の力によれば死人も生き返ることが示されている。しかし、また、いつかは皆死を迎えたはずである。イエス・キリストのよみがえりはこれとは違い、永遠に生きるからだによみがえられたのである。「朽ちないからだ」「栄光のからだ」とも表現される。これは、イエスが神の御子であることの証明である。
- * 「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」（ローマ6：4～5）バプテスマを受けるとキリストが死んだように私も罪と自我に死に、キリストがよみがえったように、私も永遠のいのちをいただいて生きることができる。つまり、バプテスマとはキリストの十字架と復活を同時に経験することである。洗礼を受けた者は、そのときから新しい命を受けてキリストとともに歩み出す。生き生きとした希望に満ちた日々の歩みをするができる。
- * イエスはよみがえりの後、弟子たちに現れ、天に昇り、父の右に座しておられる。元々居られた天に帰られ、姿は見えないけれども今も天におられ、私たちを見守ってくださっている。私たちを導き、私たちの友としてともに歩んでくださっている。イエス・キリストは永遠に生きる方である。今も生きておられる。ここにおられる。
- * しかし、イエス・キリストのストーリーはこれで終わりではない。世の終わりの日に再びこの世に来られると約束されている。そのとき、主イエスを信じるものは死んだ者も生きている者もキリストと同じように朽ちない体によみがえらる。そして永遠にイエス・キリストとともにいることになる。愛のプレゼントはもう一度用意されているのである。それをも待ち望みながらこのクリスマスの時を過ごしたい。